

No.	団体名	事業名	事業概要	事業実施内容
1	宮海地域おこし企画提案活動組織	第3回「みやうみ海岸海まつり」	海水浴場の開設期に、海水浴場・その周辺で様々なテーマを取り入れた「みやうみ海岸海まつり」を開催。 親しみやすく、老若男女が「身近に海边とふれあい、それぞれの新発見」ができる機会を提供し、酒田の観光振興につなげる。	7/16「地引網体験」(150名参加)では、夏の観光振興につながり、更なる高まりが期待された。「庄内浜の漁法・地魚の学習講座」(小学生43名、父兄36名参加)では、親子で魚食についての意識向上が図られた。 7/22「水中綱引大会」(大人・中学生34名、小学生6名参加)では、海水浴場の新たな魅力をマスコミを通じて県内に発信することができた。 7/28「エネルギーツアーズ」(大人31名、小学生8名)では、参加者の再生可能エネルギーに対する関心の拡大が図られたとともに、市民参加型の発電所見学会企画のきっかけをつくったことで、酒田市臨海産業振興促進にもつながった。 8/11「ビーチ音楽フェスティバル」(来場者250名～300名、11組のアーティスト・パフォーマンズグループ、11店のフード屋台・フリマ)出場者と地域住民、来場者と地域住民、世代間との交流が図られ賑わいを創出できた。 「風車等ライトアップ」(7月5回、8月6回 計11回点灯 19:30～20:00 延べ来場者60名)では、来場者の心の癒しを与えたとともに、酒田市の観光振興の一端を担うことができた。
2	絆盆栽を愛する会	可愛いミニ絆盆栽作りと提供	一人暮らしの高齢者・高齢者世帯の皆様に提供する「絆盆栽」を楽しみながら作る。 また、「絆盆栽」の苗木の交換等の維持管理を「絆の家」で行う。	高齢者・被災者同士の交流を促し「孤独死」防止につなげるため、田沢コミュニティ振興会(42個)・琢成学区コミュニティ振興会(50個)・本楯コミュニティ振興会(41個)の地域内の高齢者と石巻市新立野第2町内会に51個(石巻めぐみ野ライオンズクラブの協力により)提供し、コミセン、自治会、高齢者等との交流を図った。 その他、市内コミセン16箇所、福祉施設2箇所に飾っていただくことで、高齢者の交流のきっかけ作りや次年度以降の事業につなげた。
3	プロレス愛志隊	愛志隊・キッズプロジェクト with みちのくプロレス	酒田の子供たち自身が自らの身を守るため知識を学び行動できるような青少年育成として、事件にまきこまれないための防犯教室、プロレスラーに学ぶ体力向上教室、みちのくプロレスラーによる模範試合を行う。	5月19日実施。天候雨天のため参加者が予定の半数になってしまったが、不審者から自身の身を守るための方法や体力づくり等行い青少年育成につながった。 1.事件に巻き込まれないための防犯教室(参加者17名/子ども9名、保護者8名) 2.プロレスラーに学ぶ体力向上教室(参加者17名/子ども9名、保護者8名) 3.みちのくプロレスラーによる模範試合(参加者約400名)
4	Organize Back Country	えみし祭	現在の若者は自然離れが進んでいる。 えみし祭を通して、県内外の方々にも地元の自然の素晴らしさや楽しさを発見するきっかけをつくる。	9月22日実施し、参加者は大人71名、子ども32名計103名になった。うち県外からも17名参加いただき酒田の観光資源である玉簾の滝や鳥海山のPRすることができた。(内容:音楽の演奏(DJ)、スラックライン、鳥海山のガイド映像の放映、飲食店の出店(6店舗))雨天のため中止⇒ツリーイング、スケートボードスクール、風の会演奏 また、玉簾の滝を管理している升田自治会に収益の一部を寄付し自治会活動への支援も行った。

5	酒田吹奏楽団	山形交響楽団員による酒田飽海地区高校生管楽器上達講習	酒田市内の高校吹奏楽部の技術向上を図るための管楽器講習会。 県内のプロ楽団である「山形交響楽団」より金管奏者・木管奏者を指導者として招き、奏法や基礎トレーニングの方法を学び、技術や音楽表現の向上を図る。	酒田市内の高校吹奏楽部の技術向上を図るために、県内からプロの奏者を招いての講習会を開催。講習前に生徒からアンケートを取ったことで、ニーズに合致した有意義な講習となった。10月21日に基礎講習を実施。3月23日に発展講習を実施。参加校は、酒田東、酒田西、酒田南、光陵の4校。来年度については、酒田市主催の楽器講習会が始まり、各校の日程を調整することが困難であることから、継続せず。ただ、吹奏楽団のメンバーがボランティアで講習を随時行うことで、全体的なレベルアップを図っていきたい。
6	DO IT 実行委員会	DO IT 2018 - YAMAGATA MUSIC FES.	地元の若者たちによる手作り感あふれる音楽フェスティバルを行う。 人口減少が懸念される酒田において、地元からも全国各地からも憧れられるイベントを制作し、地方からカルチャーを発信していくスタイルの目標としてみてもらえる存在となることが目的。	6月9日実施。34組の県内外からの出演アーティストによるライブ演奏の他、19店舗の飲食・物産の販売、酒田市出身のイラストレーターによるライブペインティングを行い、県内外に酒田市からカルチャーを発信しながら、市内観光も行き、酒田市の観光振興にも寄与できた。 ○参加者一般568名 招待券配布客70名 出演アーティスト130名 出店者50名 運営スタッフ85名 高校生ボランティア15名 計918名(入場者数)/うち45パーセントが県外来場者
7	歌声ランドさかた	賑わいの街づくりに歌声活動実施	高齢者施設・病院・にぎわい健康プラザ等で人々が明るく元気に過ごせるよう、歌声活動を中心に歌声ランド・楽器演奏での訪問活動を継続し、高齢化時代を大切にす。	7月7日、七タミニサロンコンサートを実施。25名の参加者を集める。7月21日賑わいサロンコンサートを中町にぎわい健康プラザで実施。それぞれ20人程度の参加者を集めた。9月24日にも中町にぎわい健康プラザでギター奏者を招き、コンサートを開催し、15人参加。その他、ボラ・公センから紹介のあった福祉施設を回り、コンサートを行った。
8	トラウベの会	家族とお産の写真展&講演会	少子化に伴い、身近ではなくなってしまうお産の写真を、小中高生、女性やパートナー、経験者等たくさんの方々にご覧いただき、お産について、命について、子育てについて、講演会を開催して、学び合う。伝え合う。	10月13、14日交流ひろばでお産の写真を展示、14日には矢島助産院の院長である矢島床子氏をお招きし講演会を2回実施した。(2年目)写真展には25名程度、講演会1回目は9人、2回目は11人、中高生(女子)の参加もあった。 この写真展や講演会を通して、中高生がお産を考えるきっかけ、子育て中の女性のお産の振り返り、産む女性とその家族、親族、周囲や地域の方々ที่想いを共有できる機会となった。
9	へらへらでゆう会	雪かき道場 in 酒田市日向	中山間地域の除雪の担い手不足解消のための即戦力となるボランティアを育成し、除雪作業時の安全な作業や雪下ろしの方法を習得。 活動を通して、地域コミュニティの維持や交流人口の増加に寄与する。	10月20日共助除雪シンポジウム「雪かきで地域が育つか?」(1部)を開催(53名参加)、2月2日から3日にかけて、「雪かき道場 in 酒田市日向」を開催し県内外からの参加者(20名参加)が実技演習を取り入れた雪かきの実践を学んだ。シンポジウムでは、除雪対応について他地域(大沢地区)への波及効果も促すことができた。また、雪かきを安全にかつ効率的に行う技術を習得することで、中山間地域における雪問題に対応できる人材育成につながった。地域以外からの参加者も多かったことから、交流人口への増加やそれにかかわる地元住民のコミュニケーション力の向上にもつながった。